

弔辞（7編）

*注：冒頭の番号・氏名は水交会研究委員が付与した。

1. 福地誠夫：平成19（2007）年7月26日没

謹んで福地誠夫先輩の御霊に申し上げます。百歳を超えられて全く衰えを示されず、矍鑠としてますますお元気な模様はいつも建夫君から承り、この分では人間寿命の限界といわれる百二十歳まで大丈夫と信じておりましたのに、このたびの悲報に接し、突然慈父を奪われたような悲しみと淋しきで一杯でございます。

こうして御霊前に立ちお写真を拝しますと、海軍と海上自衛隊を通じて長い間賜ったご指導とご厚情の数々が思い出され、感慨さらにひとしおでございます。海軍当時は私どもを担当される人事局員として、終戦を挟み身の振り方に至るまで、行き届いたご配慮を戴き、海上自衛隊では、海陸多くの要職を通じて、穏やかな中に筋を通す心温まるご指導とご鞭撻を賜りました。そしてご退職後になりますが、熱海光雄をはじめとする若いクラスの有志が、海軍兵学校上下各クラス間の連携が全くない当時の実情を憂いて、連合クラス会の結成をはかったとき、先輩はその趣旨に賛同されて、率先自らその組織化と運営の先頭に立たれ、やがて全国大会の計画実施と海軍兵学校出身者名簿作成という二つの画期的事業を成功させる原動力となられました。特に全国大会には高松宮両殿下のご出席をお願いして成功されたこと、またこれらの事業を通じて上下のクラス会を結ぶ暖かく強い絆と、献身的協力のチームワークを育成されましたことは、その後連合クラス会が順調に発展し活動する礎石になったのでありまして、関係者の生涯を通じて忘れることできない先輩のご功績であり、また後輩に対するご温情のたまものであります。この辺の経緯とご尽力をもっともよく承知しているのは熱海でありまして、本来彼が申し上げるべきところ、体調不良のため、私が代わって申し上げます。行き届かないところはお許し下さい。

福地先輩は海軍の家に生まれ、生涯を海軍と国家に捧げられました。先輩が全く私心なく職務に精進されるお姿は、私どもに対する何よりの教えでありました。ここに60年を超える長い間のご指導ご厚情に対し心からお礼申し上げ、育成された連合クラス会の全員とともにご冥福をお祈り申し上げます、

平成19年7月31日

中村悌次

2. 草刈正一：平成19（2007）年8月

弔辞

謹んで草刈正一君の御霊に申し上げます。君が腸を病み一進一退の病床にあると聞いて回復の早からんことを切に祈っていましたが、ついに悲報に接し悲しみと淋しきで一杯であります。君と兵学校で相知ってから七十年、思えば長いご縁でありました。中でも一号生徒の時には六名しかいない同じ分隊でもっとも身近に最上級生徒としての苦楽をともにし、兄弟以上に親しんできたのがつい昨日のように思われます。当時君の母上は小倉におられました。休暇の土産に各人ご当地名産を持参し休日にクラブで披露があったとき、君の持ってきた成金まんじゅうがもっとも好評を博し、爾来うまいものの代名詞が略語で”なま”となったことも懐かしく思い出される一つです。

君はいつも身をもって範を示しつつ懇切丁寧に下級生を指導し鉄拳を振るうのを見たことがありません。そういう君が下級生から慕われ信望を博したのも当然でした。

卒業後艦隊に配乗し別れてからは会う機会がなく ことに君が航空に進んでからはますますその機会はありませんでしたが お互いの消息は「若桜」や連絡報でよくわかっており 離れていても気持ちはいつも通じていました 開戦時の君の覚悟を知ったのも「若桜」に載った君の和歌でした 「国のため尽くす心はただ一つ 翼に画ける赤き日の丸」「大君の御楯となりて征かん日の 清き心を何に例へむ」「今日も亦空飛び征かん荒鷲の 赤き心を翼に画きつ」このうたのとおり 君はもっとも危険な戦闘機の分隊長あるいは飛行隊長としてほとんど第一線にあって勇戦敢闘しよくぞ生還されました この間多くの危険に直面したことは想像にあまりありますが 自らの功を誇ることを嫌う君からは直接話を聞く機会はありませんでした 思うに万事に用意周到で注意が行き届きしかもここぞというときに見せる君の決断がこの成功の基本であったことに疑いはありませんが 戦場の生死は紙一重 女手一つで君を育てた母君の祈りさらには在天の君の父上の冥助が働いていたことを疑いません

戦後は母君に孝養を尽くしつつ 電力会社で民生復興に尽力しまた幸福な家庭生活を楽しまれました 疾風怒濤の前半を補ってあまりある春風駘蕩な後半といえましょう

君は会津武士の血を受け思いがけなく早く世を去った父上の志を受け継いで海軍に入り全力を尽くされました その海軍が敗戦で消滅しついに志を遂げることはありませんでしたがこれも運命の定め 与えられた環境に応じ 誠意を貫きつづいた自らの生涯を顧みて君に悔いは全くなかったと思います 本当にお見事でした

名残は尽きませんがここに七十年の友誼を感謝し心からご冥福を祈ります

平成19年8月2日

第67期会代表 中村悌次

3. 中村亨三:平成19(2007)年12月

弔辞

謹んでなき中村亨三君の御霊に申し上げます。君がくも膜下出血で倒れてから6年、何事にも粘り強く決して負けない君のこと、必ずや回復を果たしてまた元気な顔を見せてくれるとの期待も空しく、旅立たれたとの悲報に接し、悲しみと淋しさで一杯であります。

江田島で初めて顔を合わせてから66年、この間の様々なことが走馬燈のように頭に浮かびます。戦争が始まったとき君は駆逐艦の航海長として、マレー方面の作戦に大活躍し、大詰めのジャワ進攻では、バタビヤ沖で我が輸送船の攻撃を企てる敵の巡洋艦と戦い、僚艦と協同して見事に相手を沈めて輸送船団を守り抜く殊勲をたてられました。しかし、この戦いで敵の一弾が君の乗艦の艦橋に命中し、君は重傷を負い療養を余儀なくされました。眼をやられて視力の衰えた君は、傷の癒えた後通信関係に道を求め、昭和19年以来攻撃機を以て編成された701航空隊の通信長としてフィリッピン、台湾、南九州を転戦、悪戦苦闘を重ね、国分航空基地で終戦を迎えました。終戦後の後始末を終え郷里に帰ったのは昭和24年秋、公職追放が解けた後、収入役、助役として8年、さらに市長に選挙されて20年、十和田市の基盤の確立と発展に一身を捧げ、郷里の振興に大きく貢献されました。こうしてみるとおり、君は海軍と、地方行政と、公共のために奉仕した尊い一生を送られました。本当にお見事でした

君はどんな悲運にも決して挫けず、与えられた環境の中で最善の道を模索し、それに全力を尽くす人でありました。堅忍不拔、不撓不屈とは、君のために作られた言葉のように思えます。粘り強さも二枚腰、まさに東北人の典型ともいえましょう。しかもいつも明るく、心配り豊かに、他人の面倒をよく見てきました。その人柄の上に、郷里を発展させる見識と哲学を持った君に人望が集まり、20年の長きにわたり市長を務めたのも故なしとしないと思います。

君は祖国のために命を捧げた方々の慰霊顕彰にもきわめて熱心でした。忙しい市長勤務の間隙をぬって靖国神社で行われた級友の慰霊祭にもよく出席してくれました。

その君が最後の病に勝てなかったのは誠に残念ですが、限りある命が人間の宿命、ここに級友を代表して70年に近い長い間の友誼を感謝し心からご冥福を祈ります。

平成十九年十二月四日
海軍兵学校第六十七期会幹事
中村悌次

4. 熱海光雄：平成20（2008）年7月

弔 辞

熱海君は本当に逝ってしまったのか。最後に君の顔を見たのは2週間前、大分よわっているとは思ったが、意識は明瞭でこんなに早く別れるとは嘘のように思えて仕方がない。

昭和11年初めて江田島で君に会ってから70年、君に学ぶことは多く本当にお世話になった。駆逐艦「春風」水雷長として開戦を迎えた君は、バタビヤ沖海戦で活躍し、南西方面の勤務を経て22戦隊司令部で終戦を迎えた。この部隊は本州東方に漁船群を展開し多くの犠牲を払いつつ本土空襲の早期警戒に当たったもので特攻部隊に準じて扱われ、よくぞ生き残ったことである。戦後君は多くの困難を克服して東大工学部を卒業、国際工機で工作機械の輸入に、ついでTHKで直動ベアリングの普及販売に当たり、アメリカでの勤務を含め大きな業績を上げた。いずれも君にとってはもちろん、戦後の日本で初めてとも言うべき新しい仕事であったが、困難であるほど闘志を燃やし、あくまで目的を貫く君の流儀をよく発揮したのであった。

これらにもまして君が情熱を傾け力を注いだのが、海軍顕彰への貢献である。クラス会はもとより関係部隊の慰霊顕彰、海軍兵学校連合クラス会の設立と育成、海軍兵学校出身者名簿の作成、海軍水雷史の編さんなど、いずれも君の熱意と推進力があってこそ成り立ったのであった。そしてクラスを始め関係ご遺族のお世話を本当に良くされた。

生徒のとき起床動作で常に一番であった君の俊敏活発さは、君の生涯を通じいつもよく発揮された。負けず嫌いとしん心を貫く意志の強さ、それを裏付ける努力と実行力さらには説得力は、君の真骨頂であり、加えて情味ある人柄こそ多くの人を引きつけた磁力と言えるだろう。「我が生涯に悔いなし」と君が回顧するのも宜なるかなである。

君の唯一とも言える趣味はコーラスであり、77期のコーラスグループ、コール77に入ってから大きな声で歌うときは本当に幸せそうであった。静養中たまたまコール77の発表会があり、家族に強いて会場に来た君が、突然壇上に上がり、一員に加わって歌ったのもつい昨日のような気がする。

もう一つの好みがビールであった。ビールが出てきたときの君のうれしそうな顔も忘れられない。

思い出の尽きることはなく、その人がもういないと思うと、淋しさは限りない、しかし余命少なき我々、残る桜も散る桜。やがて、また会う日も遠くないと自ら慰めてしばしのお別れとしよう。本当に有り難う。お世話になった。謹んでご冥福を祈る

平成20年7月10日

第67期会代表 中村悌次

5. 二間瀬 国郎：平成 21 (2009) 年 6 月 17 日没

弔 辞

謹んで二間瀬国郎君の御霊に申し上げます。君が食道ガンの90%を退治し残りとは共存するのだと聞いたのが一昨年 11月、時を同じくして最愛の夫人を失われ、昨20年には肺への転移が見つかりました。その苦しいなかにあっても、いかにも君らしくいつも明るく楽観的で希望を失わず、人生最後の苦闘といった暗い影はすこしもみせませんでした。この分ならばまだ当分大丈夫、我々よりは長生きするよと語り合ったそのときに悲報が飛び込んできました。誠に残念、哀惜の思い一入です
君と初めて顔を合わせてからもう73年、248名の級友も君を失って19名となりました。人生まさに夢のごとしです。

君は近視の傾向が有り、それだけ海軍では進む道が限定され、通信関係を歩むことになりました。開戦後は潜水母艦や巡洋艦の通信長として第一線で活躍したのち、昭和19年の初めからとくに瞩目されて 連合艦隊司令部付き暗号長を命じられ、終戦まで作戦の枢機に参画しました。これは君の人柄と能力が海軍のエリートともいうべき連合艦隊司令部の長官以下各幕僚に十分認められていた何よりの証左と思われます。戦争破れて君は故郷に帰りましたが、それからの各方面における目を見張るような活躍もまた君の真骨頂を示すものといえましよう。詳しいことはご列席の皆様の方がよくご存じとおもいますので主なものを三つ簡単に申し上げたいとおもいます。故郷でまずはいった信用組合は 君の優れた着眼と実行力により大きく発展し、君は鹿児島信用金庫の重役まで昇進しました、その間の君の貢献が万人に認められたということでしょう。水泳は君が子供の頃から得意とするスポーツですが、信用組合のチームから初めてやがては鹿児島県と鹿児島市水連の両方を担って大活躍し、日本水連の有効章や勲6等旭日章を頂く功績を残されました。もっとも大きな奉仕はかもめ会をまとめて東郷元帥五十年祭記念行事を大々的に計画し成功させたことでしょう。本当に君は一生を通じて国のため公共のため奉仕されました。

さわやかで明るい君、よく考えやるときは断行した君、多くの人を魅了して一つの方向にまとめた君、本当に長い間ご苦勞でした。どうかゆっくりおやすみください

6. 今井梅一：平成 21 (2009) 年 8 月 20 日没

弔 辞

梅さん、君が昨年4月、胃ガンで手術不能ということを目にしてから、この日のあることを全く考えなかったわけではないが、元気に普段と変わらない生活をしていると聞くと、ご本人ははっきり覚悟を決めていたというのに、こちらはついこのまま命取りにはならずすすんでくれればと楽観的に考えてきた。それだけにいざお別れとなると、こんなに悲しくこたえるとは思わなかった。

数えてみれば江田島で同期の契りを結んでから73年、君はいつも自分は表面に出ないようにしながら我々一同を支えてくれた。無私奉公これが君の生涯を通じる生き方であって、クラス会や級友に対しても全く同じであった。

開戦時君は駆逐艦叢雲の砲術長としてマレー等の進攻作戦に従事、ミッドウエー作戦を経て南東方面に投入され、17年10月被害を受けた味方巡洋艦を救援中、多数の敵機の攻撃を受け行動不能となり、乗員を收容後味方により処分された。君はその後戦艦榛名に勤務中潜水艦要員に指定され、イ365およびイ8潜水艦の水雷長を経て20年4月、ロ50潜水艦長となった。就任早々沖繩戦の渦中に投じられ300発以上の爆雷等の攻撃をよく回避して無事生還した。この攻撃回避は当時の潜水艦部隊にとっては画期的なものであって、君は戦場から呼び戻され詳しい説明を要請されたほどであり、もっとも貴重な戦訓となったので

ある。艦長としての初陣でこれだけの成果を上げたのは、君の技量もさることながら短時日の間に徹底した君の部下統率力によるものであろう。

戦後君は貿易会社で活躍中海上警備隊の発足に応じて入隊、3佐からやがて海将佐世保地方総監まで部隊はもちろん海幕や統幕を含めて多くの配置で活躍した。私は君とは相応じるような勤務が多く、君は私の足りないところを陰に回ってよくカバーし、時には有り難い忠告もしてくれた。

君が部隊勤務に次いでやり甲斐を感じたのは幹部候補生学校や練習艦隊での勤務ではなかったろうか。君は候補生学校の教育部長としてまた校長としてさらには練習艦隊司令官として多くの候補生を育てたが、彼らに注ぐ君の愛情は深く、真実であった。卒業してもう大分経ったと思われるのに、名前だけでなくその背景までよく覚えていた。君が行く先々で多くのの人に慕われ仰がれたのも、無私奉公の基本の上に相手に対する深い愛情があったからではなかろうか。

散る桜、残る桜も散る桜、そう長い間お待たせすることもないだろう。しばらくの間ゆっくりお休み下さい。あらためて長い間の友情とご指導、ご支援に厚くお礼申し上げます

平成21年8月23日

海軍兵学校第67期クラス会代表 中村悌次

7. 新庄直常：平成21（2009）年10月

弔辞

新庄君

もともと頑健でない上、今年は長期にわたり入院を余儀なくされた君の、今日の悲報を全く予期しなかったといえは嘘になろう。しかしもう君がこの世にいないとはっきり告げられ二度と君の顔を見、声を聞くことができないと知ったときのこの悲しみと淋しさの深さは表現する言葉もない。

君は万人に優れた素晴らしい才能とそれを磨く強い意志を持ちながら、それを推進する体力に恵まれず、どんなにかもどかしい思いをしたことだろう。兵学校最上級生徒の時に胸をこわし、遠航にも行けず、進級も遅れる悲運に遭いながら、決してこれに負けなかった。与えられた環境のなかで最善を尽くし、やがて当時アメリカに大きく引けをとっていたレーダーの権威者となり、その活用、発展に尽力した。海軍に対する貢献は、順調に海上勤務を重ねた級友に勝るとも劣らないものがあったといえよう。

無理を重ねた君が療養中に終戦となった、戦後は肺結核を療養しつつ、生計を支え、しかも慶応の通信教育をおえてやがて独学で税理士の資格を取り、税理士を開業した。その後も苦心も苦労も少なくなかったであろうが、良き配偶者を得て、幸せな家庭を作り、業績も順調に発展した。

こうしてみると、君の人生は山あり谷あり紆余曲折を経たものの、君の一貫した誠実さと努力が道を開いてきたように思う。

君を知ってから70余年、何かにつけ忠告と激励を頂いた。本当に有り難いことであった。別れているのもそんなに長くはあるまい。心からご冥福を祈る

平成21年10月27日

第67期級会幹事 中村悌次